

おいしい時間 カフェ ハンズプレイスカフェ

健康的な食の提供がモットーで、野菜を多く使った家庭的なランチのほか、手作りのデザートを楽しむながらゆったり過ごせるカフェ。

人気の日替わりランチは、肉か魚の主菜に副菜とサラダが付く健康ランチと、肉または魚の主菜、パンとご飯かパスタにサラダとお茶が付くミニランチセットがある。また、定番のドライカレーとオムライスも好評。家庭菜園をしているスタッフなどが提供した新鮮な季節の野菜を使っており、価格を



家庭的な日替わりランチが好評

抑えるのにも貢献している。パンをはじめデザートは白玉団子やパンケーキ、小豆あんなどは自家製のやさしい味わいだ。

社会福祉士、精神保健福祉士、手話通訳士の資格を持つオーナー店長の竹林伸子さんは聴覚障がい者と支援者が対等に学び活動できる場を作ろうと「ハンズプレイス」を平成29年に結成、ランチ

☎6326-0175 和泉本町1-25-5シャテロF102
営業=午前11時30分～午後5時(水・木曜は午後3時)
火・金・土曜休み



竹林さん(左)とスタッフ

- MENU (税込)**
- ①ミニランチセット¥650(日・月のみ)
 - ②健康ランチ¥600、ミニドライカレーセット¥650、ミニオムライスセット¥650、コーヒー¥350、紅茶¥350、
 - ③パンケーキセット¥650、白玉・あずき¥400、白玉・ぜんざい¥400、チーズケーキ¥400

会、講演会などを行ってきた。同店は30年に聴覚障がい者の交流と活動拠点としてオープン、健康的なメニューが人気を呼び、いまでは障がいを持っていない人も多く来店、交流の拠点になっている。

スタッフは栄養士、調理師など専門家や料理好きの主婦など約15人が2、3人ずつ交代で働いている。聴覚障がい者もいるため、注文や会話用に客席にタブレット端末を置いてある。会員の手作り品の展示販売もしている。



デッキベンチでテープカットする(左から)谷田部議長、松原市長、平林浩一代表理事
**狛江駅周辺のにぎわい創出
デッキベンチなど設置、ほこみちが完成**

一日署長委嘱式で使い初め

歩行者の快適な空間と狛江駅周辺のにぎわいの創出を目指して、狛江市が総工費約2億3,500万円をかけて令和5年度から2年がかりで行っていた狛江駅北口周辺の「ほこみち」がこのほど完成した。

3月15日には、噴水があった場所に造られた直径約11mのデッキベンチでオープニングセレモニーを開催、松原俊雄市長、谷田部一之市議会議員、一般社団法人狛江まちみらいラボの平林浩一代表理事がテープカットを行い、完成を祝った。

続いて、デッキの使い初めとして一日警察署長の委嘱式が行われ、筒井朝彦調布警察署長がものまねタレントの坂本冬休みさんに委嘱状を手渡した。署長の制服に身を包んだ坂本さんは、坂本冬美



筒井調布署長(左)から一日警察署長を委嘱された坂本冬休みさん

さんの曲を披露、集まった多くの人たちから大きな拍手を受けていた。坂本さんはこの後、春の交通安全運動の一環としてエコルマホールで行われた「ファミリー交通安全のつどい」の交通安全教室でトークショーを担当、事故ゼロを呼びかけた。

デッキベンチは夜間点灯

ほこみちの令和6年度の工事は、北口交通広場周辺とそれに続く小田急線北西側の和泉多摩川方面へ向かう側道約149m。円形デッキベンチのほか、ベンチを3カ所に設置した。

戦後80年、市民大学で抑留体験語る

こまえ市民大学運営委員会(堀川康委員長)が4月に西河原公民館で2回開催する市民大学で、戦後80年にちなみ、第二次世界大戦で抑留経験を持つ人や家族が体験を語る講座を開く。今回はあまり知られていないカザフスタンとモンゴルでの経験が語られる。



従軍当時の呉さん

5日田は、横浜市在住で新宿区の平和祈念展示資料館などで抑留生活の語り部として活動している台湾人の呉正男さん(98)が講演。呉さんは昭和19年に志願して日本軍に入隊しグライダー部隊に配属され、朝鮮北部で終戦を迎えた。その後、ソ連軍によってカザフスタンの収容所に抑留され、復員後は台湾人のため軍人恩給が付かず苦労したことなどを話す。

12日田は、満州で生まれた狛江市在住の鈴木富佐江さん(88)が講演。昭和20年に38歳で招集された父が抑留先のモンゴルで22年に戦病死したこと、当時住んでいた中国・撫順市に侵攻してきたソ連軍のこと、21年に日本への引き上げなどについて話す。

時間はいずれも午後2～4時。定員は5日が40人、12日が40人、受講料200円。いずれも先着申し込み制。問い合わせは☎3480-3201西河原公民館。

駅前には響くカントリー

駅前ライブが3月9日回にえきまえ広場で催された。

市内で16年にわたって演奏活動を続けているカントリー&ウエスタンバンド「ブルームーン」が出演、「テネシーワルツ」「ユー・アー・マイ・サンシャイン」「ジャンバラヤ」のほか、フォスターのメドレーなど、なじみ深い12曲を約30分にわたって演奏。ギターにバイオリン、キーボード、ボーカルの6人が贈る軽快でリズム感に溢れたライブ演奏に、訪れた聴衆は前日の雪空とは打って変わったおだやかな春の陽差しの下で午後のひとときを楽しんでいた。

駅前ライブは、多くの人に気軽に生演奏を楽しんでもらおうと、「音楽の街-狛江 エコルマ企画委員会」が企画・開催しているもので、市内外のミュージシャンが多彩なジャンルの音楽を披露している。



ブルームーン

つなげよう 音楽の架け橋



演奏する吹奏楽部の生徒たち
**打楽器コンクール全国大会へ初出場
狛江三中吹奏楽部の7人**

狛江第三中学校(岩瀬敏郎校長)の吹奏楽部が4月3日(日)に埼玉県和光市の和光市民文化センターで行われるジュニア打楽器アンサンブルコンクール全国大会(日本打楽器協会主催)に出場する。

部長の小林佳奈さん、勝村美海さん、小栗悠人さん、三部茜さん、大森千遙さん、吉宮奏登さん、秋葉凜さんが2月に行われた映像審査で、安倍圭子作曲「プリズムラプソディⅡ」を演奏。全国から応募した中学校と高等学校の中から狛江三中など中学11校、高校14校が出場校に選ばれた。狛江市からは初。

演奏した7人は全国大会での演奏に向けて練習に励んでいる。